

## パートナーシップで輝く 学校づくり

宮城県仙台市立荒町小学校

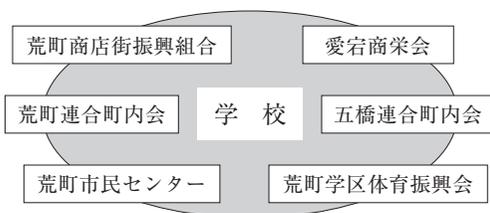
いのうえしげこ  
井上茂子

### 【実践の内容】

本校では「開かれた学校づくり」として、「連携」から「協働」へという視点を取り上げ、開かれた学校づくりのより一層の推進を図ってきた。さらに、推進のキーワードとして「パートナーシップづくり」を掲げ、より意図的に協働関係を構築しながら子どもたちの豊かな教育活動の展開に取り組んできた。

### 【論文内容の紹介】

1 学校が核となり、学びのネットワークを作る  
キーワードとして「パートナーシップづくり」を設定した。この意味するところは、学校から地域に対して一方的に協力を依頼するのではなく、子どもを軸として、同等な立場として連携を図ろうとするものである。そのために、学校が核となって、地域に新しい学びの仕組みづくり、ネットワークづくりを進めようと考えた。



●図1/学校を核とした地域の学びのネットワークづくり

### 2 荒町小発、国際交流活動

学校が核となって、新しい学びの仕組みを作ろうとする試みとして、まず学校の児童および地域の就学前の子どもたちを対象とした国際交流学習「荒町地球っこクラブ」を発足した。これは、仙台市のALT有志がボラン

ティアで講師となり、英会話や英語を媒体としたゲームなど遊びを通して国際感覚をはぐくむねらいで設定し



●写真1/荒町地球っこクラブ

たものである。教職員とALT有志とが連携し、学校や市民センター等を会場に実施した。

### 3 地域へ飛び出す音楽隊&図工展

その他、地域商店街と連携した「荒町ミニギャラリー＝地域へ飛び出す絵画展」「荒町音楽プロムナード＝地域へ飛び出す音楽隊」を実施した。前者の「荒町ミニギャラリー」は図画工作の時間に描いた子どもの絵を地域の商店のショーウィンド等に飾ってもらい、道行く方々や買い物



●写真2/荒町音楽プロムナード

に来る方々に喜んでもらうというものである。また、「荒町音楽プロムナード」は、商店の店先などに子どもたちが出向いて、演奏会を開くものである。商店街の「夢のある町荒町」のコンセプトにつながるものであり、また、学校教育目標「夢いっぱい荒町小学校」とつながるものであった。

### 4 研究の総括

今までは「地域から学校へ」に向けたタイプの連携が多かったが、今回の実践から「学校から地域へ」タイプの連携を進めることにより、学校の教育活動が活性化するだけでなく、子どもたちの願いと地域の願いが重なり、子どもたちなりに地域づくりへ参加できたという充実感を与えることができた。また、学校が核となり、地域の諸団体と連携し、新しい学びのネットワークを作ることができたことは、地域の中での学校の果たす役割を一步進める上で大変有効であったと考える。